

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②修04-09-4/5)

目 的

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。文化庁事業に協力し平成3年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成9年度から工芸品など欧米の修復技術で修復の困難な分野にも協力対象を拡げ、平成13年度から事業主体となり以後、継続して実施している。本事業では立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。また、修復内容の検討、修復作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。この修復協力事業が契機となって、国内外で所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

成 果

平成21年度は、7館11点の作品（絵画5点、工芸品6点）を修復した（うち2点（絵画1点、工芸品1点）が20年度からの継続、4点（絵画2点、工芸品2点）が海外での修復（◆印））。

〈絵画〉

- | | | |
|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1) 「歌舞放下芸観覧図屏風」 | 6 曲 1 隻 | アシュモリアン美術館 |
| 2) 「源平合戦図屏風」(裏面 竹に雀図) | 6 曲 1 双 | ベルン歴史博物館 (2年計画の1年目) |
| 3) 「四季花鳥図屏風」(狩野松栄筆) | 6 曲 1 双 | ブルックリン美術館 (2年計画の1年目) |
| 4) 「達磨図」 | 1 幅 | ケルン東洋美術館 (2年計画の2年目) ◆ |
| 5) 「唐子図」(原在正筆) | 1 幅 | ベルリン国立アジア美術館◆ |

〈工芸品〉

- | | | |
|----------------|-----|----------------------------|
| 1) 「菱繫文螺鈿筆筒」 | 1 基 | 国立ナールステク博物館 (2年計画の1年目) |
| 2) 「花樹鳥蒔絵螺鈿筆筒」 | 1 基 | アシュモリアン美術館 (2年計画の1年目) |
| 3) 「和歌浦蒔絵将棋盤」 | 1 基 | ケルン東洋美術館 |
| 4) 「近江八景蒔絵香棚」 | 1 対 | 市立ヴェルケ・メティジチ博物館 (2年計画の2年目) |
| 5) 「秋草虫籠蒔絵茶葉入」 | 1 口 | 国立ナールステク博物館◆ |
| 6) 「蕪蒔絵大鼓胴」 | 1 本 | ベルリン国立アジア美術館◆ |

平成21年度、工芸品の事前調査はスウェーデン王室/ドロットニングホルム城、同/チャイナパピリオン、同/グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨーロッパで5館17点の調査を行った。また、海外での修復アトリエに使用しているケルン東洋美術館では漆工品修復について、ドイツ技術博物館では絵画修復についてワークショップを開催した。また、平成20年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。なお本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団より助成を受けた。

報告書の刊行 1件：『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成20年度（絵画/工芸品）』
225p 東京文化財研究所 10.3

研究組織

○川野邊渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人（以上、保存修復科学センター）、北出猛夫、高柳明、井出真二（以上、管理部）、田中淳、津田徹英、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、清水真一、岡田健（以上、文化遺産国際協力センター）